

平成14年度 第1回常任委員会 議事録

日時：平成14年4月16日（火）14：00～17：10

場所：土木学会会議室

出席者：魚本委員長、宇治、大内、島、中村の各幹事、鮎田、石橋、上田、梅原、大津、岡沢、河野、
國府、坂井、堺、佐藤、鈴木、竹田、武若、辻、富田、二羽、松岡、丸山、宮川、樺山、
山本、六郷、渡辺の各委員
オブザーバー：呉（茨城大）

配布資料：

- 1-0 平成14年度 コンクリート委員会 第1回常任委員会 議事次第
- 1-1 平成13年度 第7回常任委員会 議事録（案）
- 1-2 平成13年度コンクリート委員会 会計報告
- 1-3 2002年制定コンクリート標準示方書の正誤表の件
- 1-4 平成14年度コンクリート常任委員会日程（案）
- 1-5 土木学会14年度コンクリート委員会名簿
- 1-6 委員連絡票
- 1-7 土木学会コンクリート委員会規準関連小委員会（案）
- 1-8 早急に基準化すべき試験方法について
- 1-9 示方書改訂小委員会14年度耐震設計編改訂作業部会委員構成
- 1-10 コンクリート標準示方書英訳小委員会
- 1-11 微量成分溶出に関する調査研究小委員会委員構成
- 1-12 国際関連小委員会（第2種委員会）
- 1-13 教育研究小委員会設置案
- 1-14 第3種委員会設立提案書（コンクリート構造物の耐火技術研究小委員会（仮称））
- 1-15 第3種委員会設立提案書（インフラ構造物のヘルスマニタリング研究小委員会（仮称））
- 1-16 平成14年度コンクリート委員会 予算（案）
- 1-17 土木学会全国大会研究討論会の提案
- 1-18 第46回日本学術会議材料研究連合講演会講演募集
- 1-19 STANDARD SPECIFICATION FOR CONCRETE STRUCTURES -2001"MAINTENANCE"
- 1-20 コンクリートの環境負荷評価に関する講習会ならびにシンポジウムの開催について
- 1-21 水辺のコンクリート構造物研究小委員会委員会報告とシンポジウムの開催のご案内
- 1-22 fib 大阪コンgres 2002
- 1-23 エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリート設計施工指針改訂小委員会

議事

1. 委員長挨拶

魚本委員長から新年度第1回目の開催にあたって挨拶があり、問題点等気づいた点を積極的に意見して欲しいとの発言があった。また、委員長は今年度で任期が終了することが紹介された。

2. 平成13年度第7回常任委員会議事録（案）の確認

資料 1-1 の議事録（案）が承認された。

3．報告事項

(1)平成 13 年度コンクリート委員会会計報告

資料 1-2 により、宇治幹事から 13 年度コンクリート委員会の会計報告が行われた。また、魚本委員長から、支出の実績が予算をオーバーしているが、収入の実績が予算より増え結果的に収支は黒字となったこと、黒字分は仕掛品に対して返却すること、の補足説明があった。

(2)コンクリート標準示方書関連

a)コンクリート標準示方書講習会報告と出版状況

宇治幹事から、コンクリート標準示方書講習会の参加者が、東京会場 751 名（会員 581 名、非会員 162 名、学生 8 名）大阪会場 393 名（会員：283 名、非会員：109 名、学生：1 名）であったこと、の報告が行われた。また、販売状況として、3 月 31 日までの本部・支部講習会を含んで、構造性能照査編 5823 冊、施工編 6128 冊、ダム編 4149 冊、舗装編 4733 冊、規準編 4795 冊、改訂資料 4015 冊であったことが報告された。

b)コンクリート標準示方書の正誤表について

資料 1-3 により、宇治幹事から示方書の正誤表の対応手順について説明が行われた。

(3)fib 関連

資料 1-22 により、二羽委員から fib 大阪コンGRES 2002 の概要が紹介された。

(4)その他

鈴木委員から、耐久性データベースフォーマットについて、2 月 28 日までに意見がなかったため、原案を報告書としたことの報告が行われた。

4．審議事項

(1)平成 14 年度常任委員会日程

資料 1-4 により、魚本委員長から常任委員会の日程（案）が説明され、承認された。なお、第 2 回委員会（6 月 18 日）は、事務局が JCI 年次大会つくば実行委員会と相談した後、筑波で行うか土木学会で行うかを 4 月中に連絡することになった。筑波で行う場合は、時間は 16:00 からとする。また、第 5 回委員会（12 月 17 日）では、次期委員長選出の選挙を行う。

(2)各委員会委員の構成、交替、追加等

a)資料 1-5、1-6 により、魚本委員長からコンクリート委員会の名簿が説明された。間違いがある場合は事務局に連絡することとした。

b)資料 1-7 により、梅原委員から規準関連小委員会の委員構成ならびに委員会名を規準改訂作業部会から規準改訂小委員会に改称したことが説明され、承認された。

c)資料 1-9 により、丸山委員から耐震設計編作業部会の委員の追加を行ったことが説明され、承認された。委員としては、地盤関係、地震波関係、応答解析関係の専門家が追加された。

d)資料 1-10 により、上田委員からコンクリート標準示方書英訳委員会の委員として、耐震性能照査編を追加したこと、幹事長を決定したことが説明され、承認された。

e)資料 1-11 により、坂井委員から微量成分溶出に関する調査研究小委員会の委員が変更になったことが説明され、承認された。

f)資料 1-12 により、二羽委員から国際関連小委員会の委員構成ならびに活動方針が説明され、承認さ

れた。

(3)新設委員会の提案

a)教育研究小委員会

資料 1-13 により、大内幹事から教育研究小委員会の設置案が説明された。以下の意見が出され、意見を受けて次回に委員長案も含めたより具体的な提案を行うことになった。

- ・コンクリート委員会としての教育委員会の特質を考える必要がある。
- ・維持管理や補修の講義方法について焦点を絞ることも案としてあり得る。
- ・JABEE に関連して各校の教育目標を外部評価する活動を行うことも案としてあり得る。
- ・コンクリート委員会にとらわれず活動してもよく、原案の切り口に賛同できる。
- ・もう少し具体的な内容を詰めた方がよい。
- ・案の内容だと、土木学会の委員会と連携することでより成果が得られると思われる。
- ・案の内容をコンクリートの観点から見たり、案の内容の観点からコンクリートを見るような活動は意義がある。
- ・法律や政治に関係した項目も検討して欲しい。
- ・民間の人を委員長とし、外部から見た大学の教育方法について提案してもらうのもよい。

b) 3 種委員会

b-1)資料 1-14 により、二羽委員から第 3 種委員会の提案趣旨について説明があり、承認された。委員会名はトンネルなどのキーワードを入れて再検討し、事務局に連絡してもらうこととした。委員会番号は 327 となる。

b-2)資料 1-15 により、呉オブザーバーから第 3 種委員会の提案趣旨について説明があり、以下の条件で承認された。委員会番号は 328 となる。

- ・名称は、コンクリート構造物のヘルスマニタリング研究小委員会とする。
- ・モニタリングまでを活動内容とすることを研究目的に記述する。
- ・委員は公募とする。

c)エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリート設計施工指針改訂小委員会

魚本委員長から、エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリート設計施工指針改訂小委員会（委員長：武若委員）設立の提案が行われ、承認された。また、設立の経緯として、出版委員会から改訂の依頼があったこと、諸外国で参照される機会が多いこと、指針は委託委員会として作成したが委託元が現在では 1 社しか製造していないため委託委員会とは出来ないこと、が併せて説明された。

委員会設立を受け、資料 1-23 により、武若委員から委員構成が説明され、承認された。委員会番号は 111 となる。なお、施工実務経験者を委員とするか、ヒアリングすることが望ましいとの意見が出された。

(4) 平成 14 年度コンクリート委員会予算

資料 1-16 により、宇治幹事から、平成 14 年度コンクリート委員会予算（案）が説明された。エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリート設計施工指針改訂小委員会の予算を 200 万円と変更することで、承認された。なお示方書英訳の予算に関連し、魚本委員長から、昨年度の ISO 助成金 90 万円は維持管理編の英文化に支出されたこと、今年度の助成金に関しては、報告書に助成金を受けた旨を各編ごとに記述する必要があることが説明された。また ISO 助成金に対してはプリントアウトしたものを報告書として提出する必要がある。

(5)全国大会研究討論会について

資料 1-17 により、堺委員から全国大会研究討論会として「コンクリート構造物の環境設計 - 技術革新

への挑戦 - 」の提案があり、承認された。

(6) 早急に規準化すべき試験方法について

資料 1-8 により、梅原委員から規準化の検討をする試験方法の優先順位が説明され、今年度は、引張軟化特性を求めるための試験方法（主査：岐阜大学内田先生）とコンクリートの塩化物イオンに対する拡散係数の特性値 D_k を求めるための試験方法（主査：武若委員）を、作業部会を設けて原案作成することが承認された。なお、魚本委員長から、その他の試験方法のうち断面修復材、表面被覆材、吹きつけコンクリートに関しては委託の可能性を現在打診中であることが報告された。また、示方書に記載されている試験方法をすべて規準化することの意味について意見交換が行われた。

5 . その他

(1) 資料 1-18 により、宇治幹事から材料研究連合講演会において「建設材料の高機能化と環境負荷低減技術」で講演募集していることが紹介された。

(2) 資料 1-19 により、宮川委員から維持管理編の英文化について、英文コンクリートライブラリーに原稿提出することの報告が行われた。

(3) 資料 1-20 により、宇治幹事からコンクリートの環境負荷評価に関する講習会ならびにシンポジウム開催の紹介があった。

(4) 資料 1-21 により、宇治幹事から水辺のコンクリート構造物研究小委員会委員会報告とシンポジウム開催の紹介があった。

(5) 丸山委員から、7 月 3 日に関東支部新潟会で示方書講習会を行うことの内があった。

6 . 次回常任委員会

日時：6 月 18 日（火）。土木学会で行う場合は 14:00～17:00、筑波で行う場合は 16:00～19:00。場所は 4 月中に連絡する。

以上